

# 一橋大世界史



## 19章 帝国主義

### 添削課題

#### 解答例

問1 人物Aは孫文である。孫文率いる興中会が、1905年に日本の東京で華興会・光復会と合同して結成された中国同盟会は、孫文の三民主義に基づく四大綱領を掲げた。四大綱領のうち驅除韃虜・恢復中華は、民族の独立、すなわち満州人の清朝を倒して漢民族国家を建設することを表している。また創立民国は、民権の伸張すなわち共和国の建設、平均地権は民生の安定、すなわち地主・資本家による利益独占の排除をそれぞれ表すものである。(199字)

問2 人物Bは袁世凱である。1915年、袁世凱政権は日本から二十一カ条要求の提出を受け、軍事力を背景として強圧的に受諾させられた。第一次世界大戦勃発により欧米列強からの借款が絶たれ、財政面においても窮地に立たされた袁世凱政権は、政権強化を進めるため、帝政復活を掲げたが、それに反発して第三革命が起こり、結局、袁世凱は皇帝就任の取り消しを宣言した後に死去した。以後、中国は軍閥割拠の状態に陥った。(192字)

#### 解説

#### 《1910年代の中国》

一橋大学第3問で必須のテーマである東アジアからは、多くのテーマが出題されている。2008年の第3問が、韓国併合の過程という難易度的には非常に低いものであったのに対し、本問は少し苦しむであろう。もちろん、歴史用語が頭に入っていないければどのような問題でも難問になってしまうわけだが、歴史用語が頭の中に入っていたとしても書きにくいものは難問ととらえてよい。

この大問のうち問1の方はさほど難しくない。しかしながら、知っている歴史用語をすべて羅列しても200字にはまったく届かない。しっかりと用語の内容まで踏まえた解答作成を心掛けよう。

問2は少し頭を使ってみよう。もちろん、現実には袁世凱の名を明記した上で、彼が帝政復活をめざしたにもかかわらず、それが失敗したことを書き、次に二十一カ条要求が突き付けられたことを説明すれば、十分に及第点であろう。しかしながら、しっかりとした文章にしようとする多少は考えなければならない。

経緯からいえば、日本が二十一カ条要求を提出し、それを受け入れた後、袁世凱は帝政復活運動を行う。とすれば、二十一カ条要求のことから書いていく方が素直ではないか。頭を使うというのはこういうことである。問題文の要求に応じて単純に書いていくことで、うまくまとめられるのなら問題はないが、もう少しまとめた文章を作りたいと思ったら頭は使うべきなのである。このあたりは教科書では記載が少ないため、用語集や参考書、図表などにも目を通して、多角的に情報を整理しておきたい。世界史は覚えることからすべてが始まるのだから、最後まで手抜きをせずに、幅広く情報を集める努力をしていきたい。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

## 20章 第一次世界大戦

### 添削課題

#### 解答例

問1 合衆国では、1869年に最初の大陸横断鉄道が開通した。この年には、エジプトでもスエズ運河が開通した。(48字)

問2 クリミア戦争がそれまでヨーロッパの軍事大国であったロシアの敗北に終わると、ロシアではアレクサンドル2世の下で農奴解放令に代表される自由主義的改革が始められる。まさに時代は国民国家の建設、つまり民主政治の進展を必要としたのである。この流れを決定付けたのが第一次世界大戦であった。総力戦となったこの戦争では、銃後を守る女性の役割が不可欠であった。おびただしい消耗戦において工業力を支えたのは女性であったからである。女性の地位向上、すなわち民主政治の進展にはロシア革命の影響もある。ウィルソンによる十四カ条の平和原則が、ソヴィエト＝ロシアが発表した「平和に関する布告」に対抗して出されたように、社会主義革命に対抗するために国民統合を進めなければならなかったからである。(331字)

#### 解説

#### 《アメリカ合衆国の交通／女性参政権拡大の背景》

問1については解説の余地はないだろう。解答作成に際して1分程度で終わらせること。

問2だが、問題文を一読した範囲では、総力戦についての知識があれば簡単に書けるように思える。しかし、指定語句を見ると手こずる問題だということがわかる。だいたい、なぜ「クリミア戦争」が指定語句にあるのか？「この時期に」というのは第一次世界大戦期であって、クリミア戦争は時代が違うではないか？

「ウィルソン」の語も女性の地位向上とどのような関係にあるのか迷うところだ。まさか、「ウィルソン大統領の下で女性参政権が認められた」という記述だけでよいわけがないだろう。もちろん、他に使い方がわからなければ、仕方がない。

さて、「クリミア戦争」だが、解答例を見てみればわかるように、第一次世界大戦に話をつなげる前文的なものとなっている。それはあくまでこの問題が「背景」を問われているだけだからである。もちろん、女性の地位向上ということを考えれば、ナイティンゲールの話の思い浮かべる者もいるかもしれない。しかし、それでは「この時期に」というところから外れてしまい、何よりも女性の地位向上と女性の参政権獲得とでは微妙に話がずれているからだ。女性参政権の付与＝民主化の進展＝国民統合の進展、ということを強く意識していれば、単なる女性の地位向上の話を書くのは筋違いということになる。女性の地位向上の話を書かせるのであったら、イブセンの『人形の家』などについても書くことになるだろう。

指定語句に「国民」の語があることで、単に女性の地位向上ということを書かせるわけでないことに気づきたい。しっかりと解答例を読んでおいてもらいたい。19世紀以降の歴史は、国民国家建設に反対する動きに対抗して、国民国家は民主化の進展や福祉国家の建設を

進めることで生き延びていく姿が見えてくるだろう。これは国民国家のみに留まらない。資本主義（市場経済）も同様である。社会主義のよいところを取り入れることで、現在までいくら批判されようとも続いているのである。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。







会員番号	
------	--

氏名	
----	--